慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ヴァルガ著 広島定吉訳 ドイツ帝国主義の歴史的特殊性
Sub Title	
Author	山本, 登
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1947
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.40, No.1 (1947. 1) ,p.47- 49
JaLC DOI	10.14991/001.19470101-0047
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19470101-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

つて、貨幣的均衡を維持すべき、「正常」休止時間も變化する。其故に、短期費用曲線と長期費用曲線の關係を考察する場合にも、此の點を考察しなければならぬ。豫想の彈力性が一以上なる場合には、單位時間内に於ける衝擊回轉等の繰返回數は增大するであらう。西原博士の例に於ける如く、衝擊の場合を考へれば、運轉休止に因る疲勞回復の有効時間は、繰返回數の增加と共に、減少するものゝ如くである。從つて、實質上の運轉時間は、累積的に增加する。若し、休止時間の變化を、當初の計畫の中で考慮しなければ、生産の增加率は當初の計畫以上となり、費用曲線の上昇率も、計畫上昇率以上となり、然も、遠い將來に向ふ程、累積的に增加するであらう。

無差別曲線の形狀の變化を決定するのは、消費者の心理狀態であり、生産曲線の形狀の變化を決定するものは、技術狀態である。固定資本の現價の決定に疲勞度を採り入れて考へた場合、t軸には豫想の彈力性と疲勞度の進行率の比をとるべきである。此の兩者の間には、一般に、單純なる直線的關係は存在しないから、t軸は、複利線よりも、更に複雜な曲線となり、p v兩軸との關係も一層複雜化するであらう。然も、限界速度及び彈性變形をも考慮すれば、此の曲線は、必ずしも連續するとは、云ひ難いであらう。

註1　西原博士、河本助教授「金屬材料の疲勞强度に及ぼす運轉休止の影響」（工業雜誌第九九七號）

註2　淺川博士「金屬疲勞研究に關する若干の問題」（工業雜誌第九九七號）

註3　西原博士「金屬の疲れ」（日本機械學會雜誌第三〇七號）

『ドイツ帝國主義の歷史的特殊性』

ヴァルガ著
廣島定吉譯

山本　登

ニュールンベルグ國際軍事裁判の判決に基き、嘗てのナチスの領袖の面々は、夢破れて刑場の露と消えた。洵に今日のドイツの運命をもたらしめたものは、ヒットラーを中心とするナチスの誤れる國家經營、國民指導の結果に外ならなかつたのであるが、その文明への叛逆、平和、自由、人道に對する罪過の跡は、國際法廷において剩す所なく抉出された。

だが茲でわれ〳〵は、何故にドイツがナチスの領導下に、かくも歪められた發展を辿らざるを得なかつたかに關し、その必然的因由を歷史的、社會的根據に基いて、より深く檢校する要があらう。蓋しそれは今次戰爭の眞因を明らかにする上に資するのみならず、とくに同じ樣な立場におかれた日本の過去への反省、そして又延いては今後の再建の方途に關して、暗示に富むと解せられるが故である。

かゝる意圖に對し、本譯書は好箇の參考資料たり得る。ソ聯有數の世界經濟學者として著者の分析は、時に餘りにも所謂公式論的な解釋に偏するの感を免れないが、その透徹せる理論を基礎とする實證的解明は「ドイツ帝國主義の歷史的特殊性」を綴りよく描き出す。

それは「ドイツ帝國主義の特殊性の根元は、これをあくまでドイツ自身の歷史に求むべきである」とし、「ドイツ史の中でも、つい最近までドイツ帝國主義の特殊性を規定してきた最も重要な一つの事實は、ドイツの工業、ドイツ帝國主義がおくれて發達し始めたといふことであつた」（夫々本譯者二〇頁並に二一頁）との前提的理解より出發する。

いまその全内容を委しく紹介する煩を避けるために、本書の構成を示すならば、原論文は「ドイツ帝國主義の特殊性の歷史的根元」なる主題の下に、次の七項より成る。

一、ドイツ帝國主義の歷史的特殊性

二、農業におけるプロイセン型進路
三、プロイセンのドイツ制覇とプロイセン精神
四、カイゼル時代のドイツ帝國主義
五、ドイツ帝國主義の辯證法的轉化
六、ドイツ帝國主義、ワイマール政府、國粹主義の昂進
七、ドイツのファッショ帝國主義

前記一――四項において、後進國としてのドイツ帝國主義の特殊性が歴史的に解明され、さらにこれに根ざす封建的、軍事的性格が明確に指摘せられる。五――七項においては、第一次世界大戰後の社會革命の妥協を契機とする反動化、軍國主義化への過程が示され、特に第七項におけるファッショ帝國主義についての批判は、極めて辛辣である。

前半、第十九世紀ドイツ資本主義の遲れた發達が、一八四八年のブルジョア革命をして一轉反動的たらしめ、それが「下からの」統一を斷念せしめて、プロイセンによる「上からの」帝國統一を導入するに至つた事情、さらにその後の國内農業の發達における所謂「プロイセン型進路」の進展が、國内におけるブルジョアと封建的勢力の合體を基礎として、ドイツ帝國主義の反動的性格を強化するのに資した事、他面、それはプロイセン軍閥精神の支援を得て對外的には、武力による國外市對の擴大を目途として積極的な侵略戰の提起に向はしめた事、やがてそれらの集積が第一次世界大戰の勃發を導くに至つた事實等は、既に周知の事柄ではあるが、これらの叙述の中に、過去における日本の帝國主義的發達の經過における多くの類似點を見究めることが出來ると共に、これに對する批判的分析の幾つかの基準を見出すことが可能である。

後半、第一次世界大戰後、一九一八年のドイツ社會革命が依然としてブルジョア的性格を脱却し得なかつた事から、國粹的、軍國主義的政黨の擡頭――ナチスの制覇が導かれ、その下におけるファッショ帝國主義の出現が歸結せられる。著者によれば、このファッショ帝國主義の根本的な特殊性は、公然たる民主主義的政策の採用を根幹とする凡ゆる反動的並びに掠奪的な政策の實施に求められる。（本譯書六二頁以降）就中、その經濟的本質は、鋭く「帝國主義的獨占資本の專制支配」として規定せられる。

ナチスが表面上標榜した國家社會主義の事態が、正にかかるものであり、それは「獨占資本が覇道國家を通じて自己の權力を行使してゐたのである」とするならば、あの飽くなき征服慾、そして今日の悲劇の素因は、正しく此處は胚胎してをつたと見て良いであらう。

かゝる分析から、著者が戰後のドイツ國民に對して要望する所は、ナチスの支配を恕して自ら侵略戰爭に熱狂したことに對する償ひと眞正なる民主主義的國民としての再生である。

わが國民も亦、同じ敗戰の冷嚴な現實の裡にあつて、贖罪と再建への途を歩みつゝある、

世界大戰後のドイツの辿つた途から、覆轍の難を避けんとの鞏固な意志を以て、充分の批判と反省の材料と汲み取ることが肝要であらう。

當時と現在の國際政治、經濟環境の相違、加えて各國事情の特殊性は本書におけるヴァルガ氏の分析そのまゝの充當を許すものではないにしても、民主々義平和國家としての再建を擔ふわが國民として、一つでも多くの批判的意見に耳を藉すべきとの心構えより云ふならば、本書の如き一讀に値しよう。「本書から日本帝國主義の分析批判について多くのも學ぶことが出來た」との譯者の讀後感に共鳴する所以である。（新興出版社刊定價六圓）。

〔附記〕本譯書冒頭（譯者著）において、譯者は第一次世界大戰にいたるまでのドイツ資本主義の歴史に關し、補足的説明を附加してをられる。但し本書原論文の出所が明記されてをらないことは、聊か遺憾である。

（一九四六・一〇・一七）

前號（第三十九卷第六號）目次

論説

徳川封建制度の特質……野村兼太郎
中世後期獨逸都市の意義……高村象平

資料

西洋經濟古書解題……高橋誠一郎
一千八百十六年版ジェーン・マトセツト夫人著「經濟學に關する會話」……平井新
マルクス的思想の系譜……連雀町、連雀座、連雀商人……伊藤彌之助
三田學會雜誌第三十九卷總目次